

# ICT教育の推進について

## 1 本市における子どもたちの教育課題

＜本市の子どもたちの教育課題＞

○本市の子どもたちの特徴（H30, 31 全国学力・学習状況調査結果）

- ・子どもの各教科の学力は高いが、学習に対する関心・意欲は相対的に低く、子どもが家庭で学習する習慣は乏しい傾向
- ・複数の情報を比較分析する能力が相対的に低く、自分の意志で思考判断することが不得意である傾向

- 公教育ゆえに、山間地等の不利な条件にある子どものニーズに応える教育が実施しにくい。
- 一斉の臨時休校の際にも、様々なツールを組み合わせる学習を継続させる仕組みが必要

＜課題検討のポイント＞

- (1) 本市の子どもたちの学力は高い傾向にあるが、子ども自身が教科に関心や課題意識をもって自主的に学習をしていく力に課題がある子どもが多く、大きく変化する社会において主体的に課題に向き合い解決する能力を開発することが必要ではないか。
- (2) 教員が、子どもの学習状況等から、子どもの得意分野や苦手分野を把握し、個別に最適な学習指導を実施することが必要ではないか。
- (3) 児童生徒数の減少から、中山間地校など多くの人と接しコミュニケーションをとる機会が減少する一方、急速に進む国際化社会を生きる上で、多くの意見・考えに触れ、多様な価値を受け入れ協働できるコミュニケーション能力と幅広い視野を育むことが必要ではないか。
- (4) 学習に困難を抱える子どもに対して、これまでとは異なる学習方法により、きめ細かな支援を実現することが必要ではないか。
- (5) 非常事態時に、ICTも使いながら子どもが学習を継続できる仕組みを整備することが必要ではないか。

## 2 課題解決のためのICT活用の有効性

- (1) 「指導の高水準化」：優れた教材の共有・標準化、子どもたちへわかりやすい教育の提供
- (2) 「指導の効率化」：AIドリルを活用した効果的指導、検出時間による体験型授業等の充実
- (3) 「授業のネットワーク化」：授業の視覚化・活性化・広域化・遠隔化・最新化
- (4) 「学びの個別最適化」：子どもたち個々の事情・学習進度に応じた活用

## 3 静岡型ICT教育の推進によりめざす子どもの姿

- 全ての市立学校の子どもたちが、1人1台ICT端末機器を持ち、これまでの対面授業の手法に加えて、わかりやすく動きのあるデジタル教材で、生活と学習内容のつながりを感じる授業を受けることや、遠隔地で対面しがたい多様な人の意見・考えに触れることにより、課題や困難を解決するため自ら主体的に学習している。
- 不登校児・別室登校児や特別支援が必要な子どもなど、個々の困難や事情に応じて、ICTを活用し、それぞれに最適な学習ができている。

## 4 総合教育会議における論点

- “静岡市ならではの”ICTを活用した取組とは、どのようなことか。
  - ・本市特有の課題や緊急性に応じて、重点的かつ優先的に実行する取組は何か。
- 「ICTを活用した教育」に期待することは、どのようなことか。
  - ・教育にICTを取り入れることにより、子どもたちをどのように成長させたいか。

## 5 今後の取組の方向性（案）

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和8年度 (2026)
		準備期	全面実施	発展期	将来目標
		静岡型小中一貫教育 全校実施			
		第4次総合計画			
当該年度の目標	ICTを活用した授業の実証研究	全ての学校でICTを活用した授業に取り組む	全ての教員がICTを活用した授業に取り組む	ICTで得られた情報を学習に最大限活用する	個別に最適化された学びの実現
<b>施策1</b> ICTを活用した授業の実施・優良事例の蓄積・指導モデルの構築	ICTを活用した授業の研究・実践	優れた教材・事例の蓄積・共有	ICTを活用した授業の定着・発展	スタディログ・AIドリル等を活用した学習	各教科で優れた教材・教育ソフトを活用した高水準の授業を効果的に実施し、子どもたちが楽しく主体的に学ぶことができる
<b>施策2</b> 遠隔による多様な人との交流・教育の実施	山間地校とALTとの授業の実践研究 小中一貫モデル校における実践研究	市街地校での授業の試行 小中一貫グループ校同士の授業試行	専門家との遠隔学習の実施 小中一貫グループ校同士の授業の実施	地元との交流の試行 地元との交流による地元愛の醸成	遠隔システムを活用して、多様な人と対話・交流し、子どもたちが新たな世界に触れることができる
<b>施策3</b> 困難を抱える子どもへのICTを活用した授業の実施	システム選定	特別支援対象児童のための実践研究 別室登校の子どものための実践研究	特別支援学級への活用の試行 別室登校への活用の試行	特別支援学級への活用の拡大 不登校の子どもへの活用の拡大	児童生徒の個々の事情に応じた学びができる
<b>施策4</b> ICTを活用できる教職員の育成	授業で活用する方法の研修 研修リーダーの養成	遠隔教育を活用する方法の研修	特別支援学級、別室登校への活用方法の研修	スタディログ・AIドリル活用研修	各学校の各教科でICTを活用した授業を行い、児童生徒一人ひとりの学習状況の記録により授業の振り返り指導ができる
<b>施策5</b> 地元大学との連携によるアドバイザーボードの設置	校内指導体制の設計 アドバイザーボードメンバー選	校内中核リーダーの養成 アドバイザーボード設置	ICT活用の検証及び磨き上げ		
<b>施策6</b> ICTを活用できる教育環境の整備	ネットワーク環境全小中学校普通教室整備完了 小4～中3に1人1台端末配備	ICT支援員の配置 ICTを家庭に持ち帰る実証研究 (仮称)情報教育支援室の設置 小2～小3に1人1台端末配備	家庭学習への活用 中核リーダーの全校配置 小1に1人1台端末配備		児童生徒一人ひとりが端末を円滑に使用することができる 教員1人ひとりが円滑にICT機器を活用することができる。